

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500536
法人名	有限会社 すまいる
事業所名	グループホーム すまいる
所在地	伊予郡砥部町北川毛1442番地16
自己評価作成日	平成21年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 11 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の気持ちに寄り添い、安心して過して頂ける環境作りやコミュニケーションを大切にしています。また、現場での職員一人一人の意見を大切に皆で考えて作り上げていけるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは町の小高い場所にあり、山や畑、池、民家が見渡せる自然環境の中、利用者はゆったりと暮らしている。明るく温かい雰囲気があり、職員は、一人ひとりの思いや希望を大切にしながら利用者中心のケアを心がけ、自立に向けた支援をしている。ホームは地域の祭り、運動会、文化祭、清掃活動等に参加し、地域の方がホームの敬老会に参加したり、伊予万歳や紙芝居のボランティアで訪れたり、野菜や果物を届けてくれる等、相互の自然なつきあいが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム すまいる
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	池田 正代
評価完了日	H21 年 10 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自分が住みたい場所」という事をキーワードにケアする時も常に自分に置き換えて見ると言う事を職員間で話し合い、意識づけしています。またホームが特別な存在ではなく、地域に根付いた開かれたものとして地域住民に溶け込めるよう、地区行事の参加やご近所との朝夕の挨拶等交流に努めています。</p> <p>(外部評価) 運営者と職員が話し合っつった分かりやすい理念で、利用者が地域の中でその人らしく暮らすことを支える理念となっている。理念をホーム内に掲げ、職員会議やケアカンファレンスで話し合い、職員の名札の裏にも書き入れる等で共有を図っている。理念を具体化したケア目標をつくり、実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地区行事に参加したり、当ホームの行事には子供会や地区の役員さんの参加を呼びかけたり、地区の一員として暮らす事を心がけています。事業所自体も町内会の加入や回覧板の持ち回り、清掃活動等、地区住民と変わらない役割分担をしています。</p> <p>(外部評価) 利用者は地域の祭りや運動会に参加し、文化祭で茶会や展示物を楽しんでいる。ホームは町内会に加入し、清掃活動等を行っている。また、地域の方がホームの敬老会に参加したり、伊予万歳や紙芝居のボランティア等でホームを訪れている。近所の方が季節の農作物や果物を届けてくれる等のつきあいもある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進委員会のメンバーに在宅で認知症介護をされている方もおられ話を伺ったりアドバイスさせていただく機会もありますが、多くは同業者同士の意見交換が主になってしまいます。これからの課題として地域の認知症介護で悩んでいる方々が気軽に来れる相談窓口的役割も果たせるよう、今以上に親交を深めて行ければと思っております。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 当ホームの外部評価項目及び外部評価結果を毎年運営推進委員会の議題として取り上げ、様々な意見を出して頂きました。またその意見を職員会で話し合いケアの向上に取り組んでいます。	毎回異なる家族や職員の出席により、新たな気づきを得ることを期待する。また、避難訓練について検討する時には近所の方にも出席してもらおう等、テーマによって参加者を検討する方策も期待したい。
			(外部評価) ホームの状況、行事、課題、外部評価の結果等を報告し、時にはホームの昼食会や敬老会に参加していただく等、柔軟な運営をしている。会議で出された意見や情報をサービス向上に活かしている。会議には利用者、家族、地域住民代表、民生委員、町担当者、職員等が出席しているが、出席者がやや固定化している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村には定期的な連絡会があり参加させて頂いています。他に町の介護相談員派遣事業の一環で相談員の訪問が毎月あり、利用者の声を聞いて頂きその後の話し合いを常を持って改善に向け取り組んでいます。	
			(外部評価) 町主催の連絡会が2～3か月に1回あり、情報を得たり、学習や連携の機会となっている。また、ホームを毎月訪問する介護相談員が町担当課との連絡役となっている。利用者に関する手続き等でも、随時、担当課を訪れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関、ホールの入り口は夜間の防犯以外には施錠はしておらず、職員の見守りを重視しています。また施設内研修においても意義を高めるよう、常に話し合いを持つよう努めています。	
			(外部評価) 職員会で身体拘束について話し合い、年1回は拘束に関するアンケートを実施して日頃の支援をふりかえり、拘束の弊害について理解を深めている。ホームの玄関は自由に出入りできるよう、日中は鍵はかけていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 毎年職員へのアンケート調査を実施し職員会で話し合う等、防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在制度を利用されている方もおられ、外部研修にも出来る限り参加しています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご家族には十分な説明、話し合いをし、納得して頂いた上で契約しております。 今年度改正された加算報酬についても文章にて連絡しております。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 当ホーム内での苦情委員会の設置をご家族に明示し、ケア方針の説明も個別に行う機会を設け、その中で意見交換するようにしています。又面会時には管理者や職員がご家族と話す機会を持てるよう努めています。家族の心情も察して第三者苦情委員会の窓口も契約書類に明記しています。 (外部評価) 利用者の意見は日頃の関わりや家族からの情報で把握し、家族の思いは来訪時の会話や職員からの声かけへの反応、運営推進会議の発言等からつかみ、運営に反映させている。苦情相談窓口は内部と外部に分けて関係書類に記載し、家族に説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は職員会で意見や提案を聞く機会を作ったり、出来るだけ現場の声が聞けるよう個別に話かけたりしています。また運営者も年に一度の個別面談を行う中で、多くの意見を取り上げ反映出来るよう勤めています。 (外部評価) 管理者は職員会、ケアカンファレンス等で職員の意見を聞き、運営に反映させている。また、運営者は年に1回、職員と個人面談を実施し、意見を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 給与水準については同業他社等と情報交換し、一般水準は確保するよう努めている。 労働時間についてはなるべく残業しなくて良いように効率の良い仕事出来る環境整備を行っている。 やりがいについては職員個々が見出すものだと思う。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修を希望するものについては積極的に受講するよう推奨し、受講費用等の負担は会社にて行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者、管理者レベルでの交流は行っているが、職員については個々に任せている。人員に余裕が出来れば取り組んでいきたい。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者ご本人が見学に来られない場合も、こちらから面会に伺い話を聞かせて頂きコミュニケーションをとりながらご本人を知る事、私たちを受け入れて頂くことから始めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族とも面接時や契約時には十分な話し合いを行 い、意向を確認しながらケアの方向性を決めて説明し ています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) アセスメントを行い本人の現状を把握し、医療的な サービスの提供の必要がある場合等は医師と相談の 上、外部のサービスも取り入れたり様々なサービス案 を検討しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 常に利用者の傍らに寄り添いながら、共に生活してい る仲間という意識で家事等それぞれが出来る事を一緒 に行い、色々な会話をする中で利用者から学ぶ事もた くさんあります。利用者もご自分主体の場面設定では 生き生きとした表情が伺えます。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には食事介助や散歩等を一緒に手伝って頂いたり、 外出レク時にもお誘いしています。また日常生活 の中でご本人が家族さんに関わる言葉や思い出を話さ れたりした時には、面会時に話しの話題にさせて頂き 一緒に過ごしていない時間の距離を埋めて頂けるよう 努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 職員同士の情報交換を常に持ち、ご本人、ご家族から アセスメントした交友関係も出来る限り把握してケア にあたっています。たとえばご本人がよく買物に行か れていたスーパーに買物に出かけたり、知り合いにお 会いした時には少しでも話しが出来る時間を作ってい ます。 (外部評価) 家族、友人等の来訪時には話しやすい雰囲気となるよ う心がけている。行事や買物で出かけた際に友人・知 人に出会った時は、会話を楽しめるよう配慮してい る。行きつけの美容室に行けるよう手配したり、墓参 りや葬式にも出かけられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で一つのテーブルに集って話しをする機会を作ったり職員が橋渡しをする事で、普段あまりお話をされない方でも楽しく会話されています。また個人の性格を把握し相性も考慮してテーブルの配置等も気をつける事で、それぞれが出来る事を助け合い生活されていると思います。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) これまで自宅に戻られる方はいらっしゃいませんが、ご家庭の事情で住み替えが必要となった方には移り住む先の関係者と今までの生活状況を詳しく説明する機会を持って来たと思います。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者と共に過す時間を重視し、会話や仕草の中から本人の意向や希望を把握し出来る限り希望に沿えるようケアカンファレンスを行い、実行出来るよう取り組んでいます。困難な場合にも職員間で情報交換し対応できるよう努力しています。 (外部評価) 一人ひとりの思いや希望は日頃の会話、声かけに対する反応、表情、行動等から把握している。家族の情報や職員同士の話し合いから利用者の思いを把握することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日頃の会話の中で本人の生活歴が聞けるような働きかけをしたり、家族面会時には出来るだけ多くの情報を頂ける様、話し合いを十分に行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 時間の許す限り寄り添い、心身状態の変化を見逃さないよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画作成時には家族の希望も事前にお聞きし、常にスタッフ全員で定期的にモニタリングして意見交換しています。また担当スタッフによる計画案を反映し、全員が同じケアに取り組む中で日々起こる問題点や改善点を早急に対応する為、常に意見交換する事を心がけています。 (外部評価) 担当の職員が介護計画の原案を作り、利用者や家族の意見を反映しながら職員間で話し合い、計画を作成している。計画は1～2か月毎に開催する職員会で話し合っているが、利用者の状況に変化がなくても半年に1回はモニタリングしている。計画の援助内容を個人別のケアチェック表や健康管理表に綴り、実践につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録や情報交換ノートを活用により生活、身体状況を把握し、ケアカンファレンスを定期的に行い職員間で共有する事で見直しに活かす事が出来ていると思います。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 在宅マッサージやリハビリ通院の介助、衣料品や食料品の買物に同行したり、時には外食等本人の要望や身体的状況に応じて多機能化に取り組めるよう努力しています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 警察、消防、地区消防団の方には日頃から災害時等の協力をお願いしています。また町の文化祭など行事に参加したり、美容室利用の支援も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ホーム担当の主治医がいる為本人及び家族に事前に説 明し納得して入居して頂いてますが、長年のかかりつ け医がいる場合は主治医と相談しながら出来る限り本 人の希望に沿えるようよう支援しています。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。受診時は管理者やホーム長が付添うことにし ている。協力医療機関の医師による往診が月に1回行 われている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職場内にも看護師がおり、医療面での状態変化のも早 急に気づいて対応出来る様にしてしています。また協力医 療機関の看護師は、往診、受診時には必ず同行して利 用者の状態も把握して下さっており、電話や面会での 相談も気軽に出来る関係を築いています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関が総合病院であり、入院の殆どのケース が協力機関への入院の為これまでに日常的にも情報交 換や相談が来ています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 高度の医療ニーズが必要でない限り、ご本人、ご家 族、主治医と相談の上、ターミナルケアの方向性で考 えています。その為にはご家族や医療連携者との話し 合いも密にとる事の必要性や職員一人一人のスキル アップを今以上に図る事が必要と感じています。	
			(外部評価) ホームでの看取りの経験はないが、重度化や終末期の 対応は可能としており、このことを早い段階から利用 者や家族に説明し、話し合いを重ねている。終末期等 の対応は協力医療機関の訪問診療と訪問看護で行うこ とにしており、看取りのマニュアルも作成されてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的ではありませんが、年に1、2回施設内研修を行ったり、外部研修の参加を実施しています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に一度消防署にご協力して頂き防火訓練や非難訓練を行っています。また地域消防団、地区役員、ご近所の方へも常に協力のお願いをし承諾を頂いています。 (外部評価) 防災訓練は年1回、消防署の協力を得ながら実施しているが、夜間を想定しての訓練は行っていない。災害時に地域の消防団や近所の方の協力が得られることになっているが、近くの住民が訓練に参加するまでには至っていない。	災害時、職員だけの誘導には限界があるため、職員の少ない夜間を想定しての訓練実施が望まれる。また、地域の中でも特に近所の方の実際的な協力が得られるよう、運営推進会議等を通して話し合い、一緒に訓練を行う等の取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけには十分注意し、相手の気持ちになって考えながらの対応を心がけています。 (外部評価) 一人ひとりを尊重した丁寧な言葉かけや態度で接している。自力でゆっくり食事する利用者をせかすことなく見守ったり、トイレ誘導を小声でさりげなく行ったり、着替え等は居室で入口のドアを閉めて行う等、利用者の誇りやプライバシーには十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 相手の思いや希望を引き出して行くような声かけや働きかけをしています。意思疎通が困難な方でもその表情や仕草を見逃さないように心がけています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 会話の中で希望を伺ったり個々の性格にあったご本人が出来る事を見出して促しを行います。無理強いをしないように心がけています。また食事や入浴以外の空き時間は、出来る限り本人のペースを大切に出来るよう見守っています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服等汚れ物をさりげなく交換したり、季節に合わせた洋服を本人が選べるよう場面設定を工夫する事で支援しています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の物を取り入れたり、献立を一緒に考えたり、食事の支度を手伝って頂いたりしています。また食事中は音楽を聴きながらゆったりした環境の中で職員や他の利用者とも会話を楽しめる様、橋渡しをするなどの支援に努めています。 (外部評価) 利用者は職員と一緒に食材の買いもの、料理の下ごしらえ、配膳、食器拭き等を行っている。職員は食材を柔らかく炊いたり、握り飯や刻み食にする等、利用者ができるだけ自力で食べられるよう配慮している。献立は職員が立て、協力医療機関の管理栄養士がチェックしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の食事量をチェックしたり、個々に合わせた量や形状を工夫し運動後、入浴後の水分補給もこまめに行っています。常に職員間で個々の健康状態の把握が出来る様情報交換しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後個々の健康状態、能力に応じて見守り、介助をしています。週に一度は義歯洗浄を行い、歯磨きティッシュの使用、舌のケアなどをしながら口腔状態の観察に留意しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 排泄チェック表の活用で一人一人の排泄パターンを把握し、時間を見て声かけやトイレ誘導を行い、出来る限り失禁をなくすよう努めています。	
			<p>(外部評価)</p> 利用者の状態により、夜間のみ紙パンツの方、昼夜ともおむつを使用している方等いるが、排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導等により排泄の自立に向けた支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> なるべく薬に頼らない様ヨーグルトや寒天ゼリーなどを摂取して頂いたり、水分補給にも留意しています。また腹部マッサージや適度な運動を促し予防にも努めています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 設備上の問題から曜日や時間帯は決まっていますが入浴の順番など、その日の気分や体調により配慮しています。入浴中もご本人が安心出来る様、職員が声かけや会話に気を配ることで利用者がくつろいで入浴出来るよう努めています。	
			<p>(外部評価)</p> 週4回の入浴を基本としているが、一番風呂を希望する方には希望に添うよう対応し、その日の気分や体調に合わせて介助する等、個々に応じた入浴の支援に努めている。1階ユニットの浴室には座位で入浴できる装置があり、適時使用している。浴室内は床暖房を完備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 室内温度、明るさ、音に気を配り、個々に合わせた睡眠が確保出来るよう支援しています。また寝付けにくい方には飲み物の工夫や声かけにも気をつけ、安心して眠れるよう体調管理にも留意しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を職員全員が目を通し、連絡ノートの活用により変更等の確認が出来るようにしています。服薬支援時もダブルチェックをし誤薬や飲み忘れがない様注意し、状態変化も細かく記録に残すよう努めています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴を活かし、機能、能力に応じて本人の出来る事を楽しんで頂ける様支援しています。今ではそれぞれに役割が出来ており家事や新聞とりなど、ご本人から声をかけて下さる事が多く、職員のお礼の言葉に笑顔で答えて下さる場面も見られます。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に外気を浴びれるよう散歩や外気浴の促しを行い、希望に沿って買物やドライブに出かけるなどの選択が出来る様な働きかけをしています。住み慣れた地域での交流も促せるよう、地区行事の参加を募ったり近くの施設でのレクリエーションに参加させて頂いています。	
			(外部評価) 利用者のその日の希望等により、ホーム横の池の周りや近くの団地を散歩したり、スーパーで買物を楽しんだり、地域の行事に参加したり、玄関先や庭のベンチで外気浴をする等、柔軟な外出支援をしている。行事の花見等で遠出する機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の管理能力の問題でご家族と相談、了承の上で事務所預かりとさせて頂いている方が多いですが、希望により買物時、外出レク時は本人にお金を渡したり立替の小遣いを持って頂き買物をして頂くよう支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	(自己評価) ご本人からの電話使用の要望はあまりありませんが、希望に応じてホームの電話で取次ぎを行っています。ホール内には携帯電話もあるので居室でゆっくり話せるようご家族にも説明し支援しています。能力に応じて手紙や年賀はがきを出したりなどの意欲を引き出せるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 台所は居間と続く対面キッチンになっており、食事支度の音や香りも利用者に届くようになっています。居間の窓からは庭が見え季節感も味わえます。廊下やトイレも間接照明で優しい光を取り入れています。	
			(外部評価) ホーム内は明るくゆったりとしており、床暖房を完備している。居間には見やすい時計、手づくりの日めくり、畳の間があり、花や行事の写真等を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。台所、浴室、トイレ等は気になる匂いもなく、清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや長椅子を配置し畳敷きのコーナーもあり、それぞれが気の合う仲間と思いたい場所で過ごされています。食事のテーブル席も利用者同士の相性も考慮し、席次を考えたり配置をしています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 箆笥やテレビ、仏壇とそれぞれが思いの物を持ち込まれ各部屋毎に個性があると思います。居室によっては写真や絵などご本人にとって思い出のある物を飾り、安心して生活できるよう支援しています。	
			(外部評価) 利用者の使い慣れた小ダンス、衣装ケース、イス、時計、仏壇等が持ち込まれ、写真やお気に入りの人形等も飾り、居心地よく過ごせる居室となっている。畳の間もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の表札やトイレの表示、個々の自立度、見当識にも配慮しています。たとえば目の見えにくい方には反転文字を使用した表札を使用したり、見当識に配慮して目めくりを声かけにて目課にして頂くよう支援しています。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500536
法人名	有限会社 すまいる
事業所名	グループホーム すまいる
所在地	伊予郡砥部町北川毛1442番地16
自己評価作成日	平成21年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 11 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の気持ちに寄り添い、安心して過して頂ける環境作りやコミュニケーションを大切にしています。また、現場での職員一人一人の意見を大切に皆で考えて作り上げていけるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは町の小高い場所にあり、山や畑、池、民家が見渡せる自然環境の中、利用者はゆったりと暮らしている。明るく温かい雰囲気があり、職員は、一人ひとりの思いや希望を大切にしながら利用者中心のケアを心がけ、自立に向けた支援をしている。ホームは地域の祭り、運動会、文化祭、清掃活動等に参加し、地域の方がホームの敬老会に参加したり、伊予万歳や紙芝居のボランティアで訪れたり、野菜や果物を届けてくれる等、相互の自然なつきあいが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すまいる

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏名 池田 正代

評価完了日 H21年 10月 31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自分が住みたい場所」という事をキーワードにケアする時も常に自分に置き換えて見ると言う事を職員間で話し合い、意識づけしています。またホームが特別な存在ではなく、地域に根付いた開かれたものとして地域住民に溶け込めるよう、地区行事の参加やご近所との朝夕の挨拶等交流に努めています。</p> <p>(外部評価) 運営者と職員が話し合っつった分かりやすい理念で、利用者が地域の中でその人らしく暮らすことを支える理念となっている。理念をホーム内に掲げ、職員会議やケアカンファレンスで話し合い、職員の名札の裏にも書き入れる等で共有を図っている。理念を具体化したケア目標をつくり、実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地区行事に参加したり、当ホームの行事には子供会や地区の役員さんの参加を呼びかけたり、地区の一員として暮らす事を心がけています。事業所自体も町内会の加入や回覧板の持ち回り、清掃活動等、地区住民と変わらない役割分担をしています。</p> <p>(外部評価) 利用者は地域の祭りや運動会に参加し、文化祭で茶会や展示物を楽しんでいる。ホームは町内会に加入し、清掃活動等を行っている。また、地域の方がホームの敬老会に参加したり、伊予万歳や紙芝居のボランティア等でホームを訪れている。近所の方が季節の農作物や果物を届けてくれる等のつきあいもある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進委員会のメンバーに在宅で認知症介護をされている方もおられ話を伺ったりアドバイスさせていただく機会もありますが、多くは同業者同士の意見交換が主になってしまいます。これからの課題として地域の認知症介護で悩んでいる方々が気軽に来れる相談窓口的役割も果たせるよう、今以上に親交を深めて行ければと思っております。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 当ホームの外部評価項目及び外部評価結果を毎年運営推進委員会の議題として取り上げ、様々な意見を出して頂きました。またその意見を職員会で話し合いケアの向上に取り組んでいます。	
			(外部評価) ホームの状況、行事、課題、外部評価の結果等を報告し、時にはホームの昼食会や敬老会に参加していただく等、柔軟な運営をしている。会議で出された意見や情報をサービス向上に活かしている。会議には利用者、家族、地域住民代表、民生委員、町担当者、職員等が出席しているが、出席者がやや固定化している。	毎回異なる家族や職員の出席により、新たな気づきを得ることを期待する。また、避難訓練について検討する時には近所の方にも出席してもらおう等、テーマによって参加者を検討する方策も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村には定期的な連絡会があり参加させて頂いています。他に町の介護相談員派遣事業の一環で相談員の訪問が毎月あり、利用者の声を聞いて頂きその後の話し合いを常に持って改善に向け取り組んでいます。	
			(外部評価) 町主催の連絡会が2～3か月に1回あり、情報を得たり、学習や連携の機会となっている。また、ホームを毎月訪問する介護相談員が町担当課との連絡役となっている。利用者に関する手続き等でも、随時、担当課を訪れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関、ホールの入り口は夜間の防犯以外には施錠はしておらず、職員の見守りを重視しています。また施設内研修においても意義を高めるよう、常に話し合いを持つよう努めています。	
			(外部評価) 職員会で身体拘束について話し合い、年1回は拘束に関するアンケートを実施して日頃の支援をふりかえり、拘束の弊害について理解を深めている。ホームの玄関は自由に出入りできるよう、日中は鍵はかけていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 毎年職員へのアンケート調査を実施し職員会で話し合う等、防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在制度を利用されている方もおられ、外部研修にも出来る限り参加しています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご家族には十分な説明、話し合いをし、納得して頂いた上で契約しております。 今年度改正された加算報酬についても文章にて連絡しております。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 当ホーム内での苦情委員会の設置をご家族に明示し、ケア方針の説明も個別に行う機会を設け、その中で意見交換するようにしています。又面会時には管理者や職員がご家族と話す機会を持てるよう努めています。家族の心情も察して第三者苦情委員会の窓口も契約書類に明記しています。 (外部評価) 利用者の意見は日頃の関わりや家族からの情報で把握し、家族の思いは来訪時の会話や職員からの声かけへの反応、運営推進会議の発言等からつかみ、運営に反映させている。苦情相談窓口は内部と外部に分けて関係書類に記載し、家族に説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は職員会で意見や提案を聞く機会を作ったり、出来るだけ現場の声が聞けるよう個別に話かけたりしています。また運営者も年に一度の個別面談を行う中で、多くの意見を取り上げ反映出来るよう勤めています。 (外部評価) 管理者は職員会、ケアカンファレンス等で職員の意見を聞き、運営に反映させている。また、運営者は年に1回、職員と個人面談を実施し、意見を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 給与水準については同業他社等と情報交換し、一般水準は確保するよう努めている。 労働時間についてはなるべく残業しなくて良いように効率の良い仕事出来る環境整備を行っている。 やりがいについては職員個々が見出すものだと思う。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修を希望するものについては積極的に受講するよう推奨し、受講費用等の負担は会社にて行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者、管理者レベルでの交流は行っているが、職員については個々に任せている。人員に余裕が出来れば取り組んでいきたい。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者ご本人が見学に来られない場合も、こちらから面会に伺い話を聞かせて頂きコミュニケーションをとりながらご本人を知る事、私たちを受け入れて頂くことから始めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族とも面接時や契約時には十分な話し合いを行い、意向を確認しながらケアの方向性を決めて説明しています。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントを行い本人の現状を把握し、医療的なサービスの提供の必要がある場合等は医師と相談の上、外部のサービスも取り入れたり様々なサービス案を検討しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 常に利用者の傍らに寄り添いながら、共に生活している仲間という意識で家事等それぞれが出来る事を一緒に行い、色々な会話をする中で利用者から学ぶ事もたくさんあります。利用者もご自分主体の場面設定では生き生きとした表情が伺えます。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には食事介助や散歩等を一緒に手伝って頂いたり、外出レク時にもお誘いしています。また日常生活の中でご本人が家族さんに関わる言葉や思い出を話されたりした時には、面会時に話しの話題にさせて頂き一緒に過ごしていない時間の距離を埋めて頂けるよう努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 職員同士の情報交換を常に持ち、ご本人、ご家族からアセスメントした交友関係も出来る限り把握してケアにあたっています。たとえばご本人がよく買物に行かれていたスーパーに買物に出かけたり、知り合いにお会いした時には少しでも話しが出来る時間を作っています。 (外部評価) 家族、友人等の来訪時には話しやすい雰囲気となるよう心がけている。行事や買物で出かけた際に友人・知人に出会った時は、会話を楽しめるよう配慮している。行きつけの美容室に行けるよう手配したり、墓参りや葬式にも出かけられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で一つのテーブルに集って話しをする機会を作ったり職員が橋渡しをする事で、普段あまりお話をされない方でも楽しく会話されています。また個人の性格を把握し相性も考慮してテーブルの配置等も気をつける事で、それぞれが出来る事を助け合い生活されていると思います。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) これまで自宅に戻られる方はいらっしゃいませんが、ご家庭の事情で住み替えが必要となった方には移り住む先の関係者と今までの生活状況を詳しく説明する機会を持って来たと思います。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者と共に過す時間を重視し、会話や仕草の中から本人の意向や希望を把握し出来る限り希望に沿えるようケアカンファレンスを行い、実行出来るよう取り組んでいます。困難な場合にも職員間で情報交換し対応できるように努力しています。 (外部評価) 一人ひとりの思いや希望は日頃の会話、声かけに対する反応、表情、行動等から把握している。家族の情報や職員同士の話し合いから利用者の思いを把握することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日頃の会話の中で本人の生活歴が聞けるような働きかけをしたり、家族面会時には出来るだけ多くの情報を頂ける様、話し合いを十分に行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の生活の中で、手伝いやアクティビティを通じて新しい発見が出来ればと思っています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画作成時には家族の希望も事前にお聞きし、常にスタッフ全員で定期的にモニタリングして意見交換しています。また担当スタッフによる計画案を反映し、全員が同じケアに取り組む中で日々起こる問題点や改善点を早急に対応する為、常に意見交換する事を心がけています。 (外部評価) 担当の職員が介護計画の原案を作り、利用者や家族の意見を反映しながら職員間で話し合い、計画を作成している。計画は1～2か月毎に開催する職員会で話し合っているが、利用者の状況に変化がなくても半年に1回はモニタリングしている。計画の援助内容を個人別のケアチェック表や健康管理表に綴り、実践につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録や情報交換ノートを活用により生活、身体状況を把握し、ケアカンファレンスを定期的に行い職員間で共有する事で見直しに活かす事が出来ていると思います。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 在宅マッサージやリハビリ通院の介助、衣料品や食料品の買物に同行したり、時には外食等本人の要望や身体的状況に応じて多機能化に取り組めるよう努力しています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 警察、消防、地区消防団の方には日頃から災害時等の協力をお願いしています。また町の文化祭など行事に参加したり、美容室利用の支援も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ホーム担当の主治医がいる為本人及び家族に事前に説明し納得して入居して頂いてますが、長年のかかりつけ医がいる場合は主治医と相談しながら出来る限り本人の希望に沿えるようよう支援しています。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診時は管理者やホーム長が付添うことにしている。協力医療機関の医師による往診が月に1回行われている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 職場内にも看護師がおり、医療面での状態変化のも早急に気づいて対応出来る様にしています。また協力医療機関の看護師は、往診、受診時には必ず同行して利用者の状態も把握して下さっており、電話や面会での相談も気軽に出来る関係を築いています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関が総合病院であり、入院の殆どのケースが協力機関への入院の為これまでに日常的にも情報交換や相談が来ています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 高度の医療ニーズが必要でない限り、ご本人、ご家族、主治医と相談の上、ターミナルケアの方向性で考えています。その為にはご家族や医療連携者との話し合いも密にとる事の必要性や職員一人一人のスキルアップを今以上に図る事が必要と感じています。	
			(外部評価) ホームでの看取りの経験はないが、重度化や終末期の対応は可能としており、このことを早い段階から利用者や家族に説明し、話し合いを重ねている。終末期等の対応は協力医療機関の訪問診療と訪問看護で行うことにしており、看取りのマニュアルも作成されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的ではありませんが、年に1、2回施設内研修を行ったり、外部研修の参加を実施しています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に一度消防署にご協力して頂き防火訓練や非難訓練を行っています。また地域消防団、地区役員、ご近所の方へも常に協力のお願いをし承諾を頂いています。 (外部評価) 防災訓練は年1回、消防署の協力を得ながら実施しているが、夜間を想定しての訓練は行っていない。災害時に地域の消防団や近所の方の協力が得られることになっているが、近くの住民が訓練に参加するまでには至っていない。	災害時、職員だけの誘導には限界があるため、職員の少ない夜間を想定しての訓練実施が望まれる。また、地域の中でも特に近所の方の実際的な協力が得られるよう、運営推進会議等を通して話し合い、一緒に訓練を行う等の取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけには十分注意し、相手の気持ちになって考えながらの対応を心がけています。 (外部評価) 一人ひとりを尊重した丁寧な言葉かけや態度で接している。自力でゆっくり食事する利用者をせかすことなく見守ったり、トイレ誘導を小声でさりげなく行ったり、着替え等は居室で入口のドアを閉めて行う等、利用者の誇りやプライバシーには十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人と会話の中から思いや希望を取り入れ、自己決定出来るように働きかけています。また意思疎通が困難な方でもその表情や仕草を見逃さないようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 会話の中で希望を伺ったり個々の性格にあったご本人が出来る事を見出して促しを行います。無理強いをしないように心がけています。また食事や入浴以外の空き時間は、出来る限り本人のペースを大切に出来るよう見守っています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に散髪をしたり、男性、女性それぞれの身だしなみに配慮しています。行きつけの美容室がある場合は、送迎の支援もしています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の物を取り入れたり、献立を一緒に考えたり、食事の支度を手伝って頂いたりしています。また食事中は音楽を聴きながらゆったりした環境の中で職員や他の利用者とも会話を楽しめる様、橋渡しをするなどの支援に努めています。 (外部評価) 利用者は職員と一緒に食材の買いもの、料理の下ごしらえ、配膳、食器拭き等を行っている。職員は食材を柔らかく炊いたり、握り飯や刻み食にする等、利用者ができるだけ自力で食べられるよう配慮している。献立は職員が立て、協力医療機関の管理栄養士がチェックしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の食事量をチェックしたり、個々に合わせた量や形状を工夫し運動後、入浴後の水分補給もこまめに行っています。常に職員間で個々の健康状態の把握が出来る様情報交換しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後個々の健康状態、能力に応じて見守り、介助をしています。週に一度は義歯洗浄を行い、歯磨きティッシュの使用、舌のケアなどをしながら口腔状態の観察に留意しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 排泄チェック表の活用で一人一人の排泄パターンを把握し、時間を見て声かけやトイレ誘導を行い、出来る限り失禁をなくすよう努めています。	
			<p>(外部評価)</p> 利用者の状態により、夜間のみ紙パンツの方、昼夜ともおむつを使用している方等いるが、排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導等により排泄の自立に向けた支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> なるべく薬に頼らない様ヨーグルトや寒天ゼリーなどを摂取して頂いたり、水分補給にも留意しています。また腹部マッサージや適度な運動を促し予防にも努めています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 設備上の問題から曜日や時間帯は決まっていますが入浴の順番など、その日の気分や体調により配慮しています。入浴中もご本人が安心出来る様、職員が声かけや会話に気を配ることで利用者がくつろいで入浴出来るよう努めています。	
			<p>(外部評価)</p> 週4回の入浴を基本としているが、一番風呂を希望する方には希望に添うよう対応し、その日の気分や体調に合わせて介助する等、個々に応じた入浴の支援に努めている。1階ユニットの浴室には座位で入浴できる装置があり、適時使用している。浴室内は床暖房を完備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> 室内温度、明るさ、音に気を配り、個々に合わせた睡眠が確保出来るよう支援しています。また寝付けない方には飲み物の工夫や声かけにも気をつけ、安心して眠れるよう体調管理にも留意しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を職員全員が目を通し、連絡ノートの活用により変更等の確認が出来るようにしています。服薬支援時もダブルチェックをし誤薬や飲み忘れがない様注意し、状態変化も細かく記録に残すよう努めています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴を活かし、機能、能力に応じて本人の出来る事を楽しんで頂ける様支援しています。今ではそれぞれに役割が出来ており家事や新聞とりなど、ご本人から声をかけて下さる事が多く、職員のお礼の言葉に笑顔で答えて下さる場面も見られます。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に外気を浴びれるよう散歩や外気浴の促しを行い、希望に沿って買物やドライブに出かけるなどの選択が出来る様な働きかけをしています。住み慣れた地域での交流も促せるよう、地区行事の参加を募ったり近くの施設でのレクリエーションに参加させて頂いています。 (外部評価) 利用者のその日の希望等により、ホーム横の池の周りや近くの団地を散歩したり、スーパーで買物を楽しんだり、地域の行事に参加したり、玄関先や庭のベンチで外気浴をする等、柔軟な外出支援をしている。行事の花見等で遠出する機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の管理能力の問題でご家族と相談、了承の上で事務所預かりとさせて頂いている方が多いですが、希望により買物時、外出レク時は本人にお金を渡したり立替の小遣いを持って頂き買物をして頂くよう支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人からの電話使用の要望はあまりありませんが、希望に応じてホームの電話で取次ぎを行っています。ホール内には携帯電話もあるので居室でゆっくり話せるようご家族にも説明し支援しています。能力に応じて手紙や年賀はがきを出したりなどの意欲を引き出せるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 台所は居間と続く対面キッチンになっており、食事支度の音や香りも利用者に届くようになっています。居間の窓からは庭が見え季節感も味わえます。廊下やトイレも間接照明で優しい光を取り入れています。</p> <p>(外部評価) ホーム内は明るくゆったりとしており、床暖房を完備している。居間には見やすい時計、手づくりの日めくり、畳の間があり、花や行事の写真等を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。台所、浴室、トイレ等は気になる匂いもなく、清潔感がある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファや長椅子を配置し畳敷きのコーナーもあり、それぞれが気の合う仲間と思いたい場所で過ごされています。食事のテーブル席も利用者同士の相性も考慮し、席次を考えたり配置をしています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 箆笥やテレビ、仏壇とそれぞれが思いの物を持ち込まれ各部屋毎に個性があると思います。居室によっては写真や絵などご本人にとって思い出のある物を飾り、安心して生活できるよう支援しています。</p> <p>(外部評価) 利用者の使い慣れた小ダンス、衣装ケース、イス、時計、仏壇等を持ち込まれ、写真やお気に入りの人形等も飾り、居心地よく過ごせる居室となっている。畳の間もある。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室の表札やトイレの表示、個々の自立度、見当識にも配慮しています。たとえば目の見えにくい方には反転文字を使用した表札を使用したり、見当識に配慮して日めくりを声かけにて日課にして頂くよう支援しています。</p>	